

ID ^{注1)}	061101	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	平成18年度白神山地における白神山地における森林生態系の変動及び生物多様性等森林機能の把握に関する調査研究業務						発行年月/報告年月	
							2007年	3月
調査機関	環境省 東北地区自然保護事務所			委託機関			株式会社パスコ	
調査開始年	2006年	調査期間	2007年	1月	～	2007年	3月	
調査頻度 ^{注2)}	—	調査時期 ^{注2)}	—					
モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(3)	

調査箇所・範囲 ^{注3)}		目的・調査手法	
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	<p>位置図添付 (核心地域・緩衝地域)</p>  <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>	<p>■目的 過去に撮影された空中写真データを用いて、過去から現在に至るまでの森林の立体構造の変化や成長量を定量的に把握することを目的に、過去航空写真の解析手法の検討を実施した。また、次年度以降の計画立案に資するため、野生鳥獣について期存知検討の収集とまとめをおこなった。</p> <p>■調査項目 ・航空写真データの解析 ・文献調査</p> <p>■調査手法 ・航空写真データの解析 外部標定要素を持つ隣接する航空写真のステレオペア画像から、ステレオマッチング処理を行うことで地物の表面高 (DSM) を作成した。 森林構造データとして、樹冠高 (DCHM) データの作成を行った。 DCHMは、DSMから地盤高 (DTM) を引くことで作成した。 各年時間のDCHMの高さの差分を算出することで林分の時系列変化の抽出を行った。</p>	

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

<p>■航空写真データの解析 北東部のエリアでは、1979年から1995年の間にDCHMの値が広い範囲で減少しており、この期間に人工造林が行われた場所を明瞭に把握することが可能である。また、核心地域内では、樹冠高が増加している部分や、ギャップが発生している部分を確認することが可能であった。</p> <p>■文献調査 「リモートセンシングを用いた動物生態管理の事例」について32編、「動物調査・追跡調査の新たな方法の調査」について20編の文献を収集した。</p>

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ≪原本(データ)の帰属について≫
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

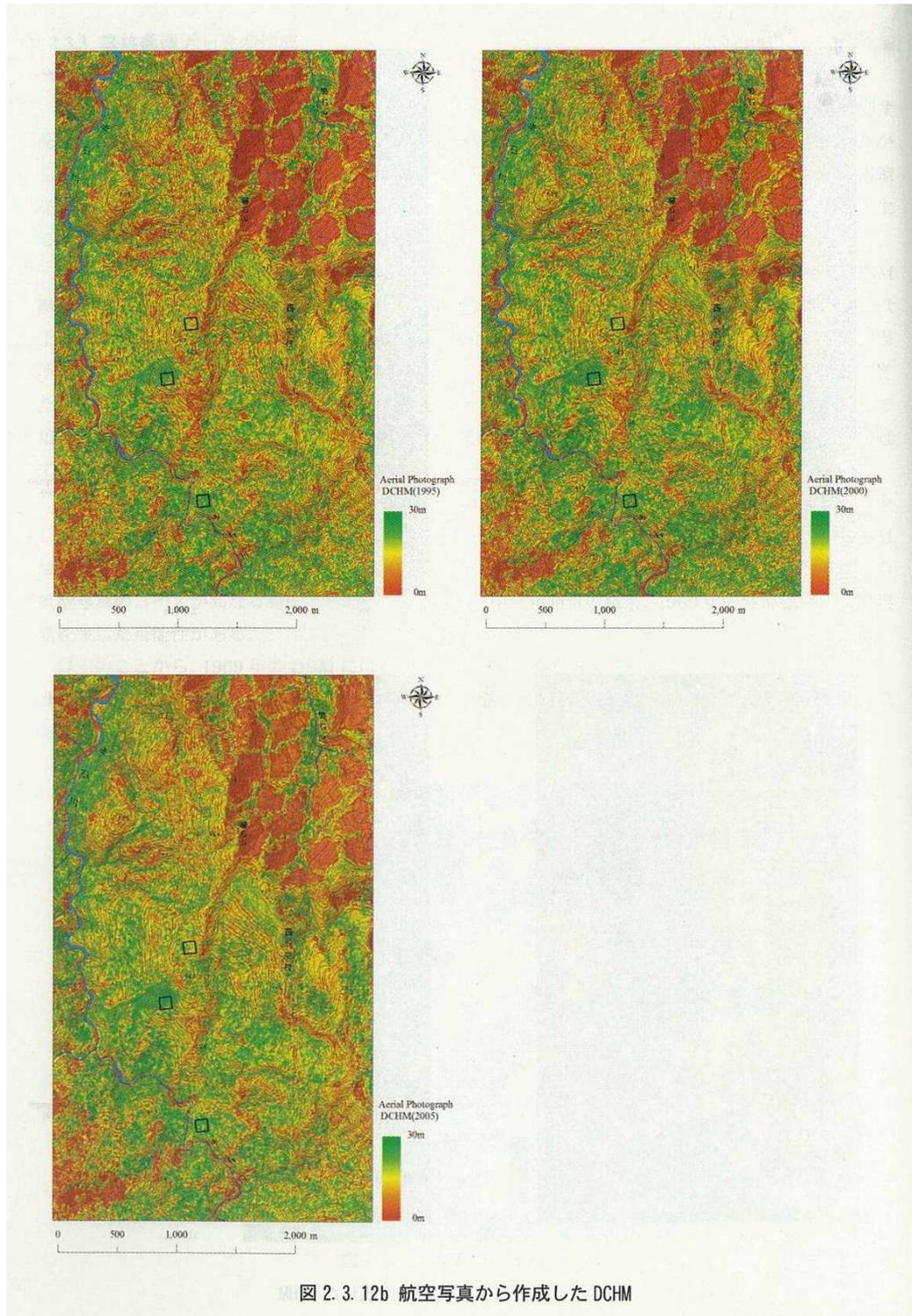


図 2.3.12b 航空写真から作成した DCHM